

PFC-FD療法（自費）

難治性着床障害に対しPFC-FD（Platelet-derived factor concentrate）療法を行っています。

※当院では2019年よりPRP療法を行っていましたが、PRPの中から成長因子だけを凝縮しフリーズドライさせたPFC-FDへと移行いたしました。

PFC-FD™は、血小板に含まれる成長因子を活用する治療法です。

ご本人様の血液から抽出した血小板由来の成長因子（VEGF, EGF, TGF-β, PGDF等）を子宮内に注入することによって細胞の成長や免疫に作用し、子宮内膜が厚くなったり着床率の上昇が期待できます。

【対象】

- ・ホルモン補充周期で行う融解胚移植

なお、血小板が150,000/μl未満、ヘモグロビン値（Hb）が11g/dl、抗凝固薬で治療中の方、HBV, HCV, HIV, HTLV-1,梅毒の感染が陽性である方など本治療の対象として不適切と判断されることがあります。

【方法】

- ・ 患者様の前腕から静脈血を50ml採取し、血液をセルソース再生医療センターに郵送しPFC-FDを作成します。（作成には3週間ほどの時間がかかります）
- ・ 調製したPFC-FDを胚移植周期に2回、患者様の子宮内に注入します。注入後は30分程度安静にしていただいってからお帰りいただきます。

【治療について】

- ・ PFC-FD療法ご希望の場合は、その旨を診察時に医師にお伝えください。（作成に時間を要しますので検討されている方は早めにお伝えください。）
- ・ PFC-FD作成後6カ月保存が可能です。
- ・ PFC-FD療法当日までに同意書が必要となります。
- ・ PFC-FD療法は自費の治療となりますので保険診療と組み合わせて行うことはできませんのでご注意ください。
- ・ 投与日の目安として、1回目は月経10日目頃、2回目は月経12日目頃となりますが、具体的なスケジュールに関しては医師より改めてご説明いたします。

【料金】

- ・ 1周期に2回投与：220,000円（税込）

（採血費用・感染症検査・2回の注入費用が含まれています）

なお、PFC-FD作成後使用しなかった場合や、PFC-FD注入後に子宮内膜が薄い・出血等でその後の胚移植や治療が中止になった場合でも返金できませんので予めご了承ください。

PFC-FD作成の際、感染症結果が陽性で作成に至らなかった場合は感染症検査代として11,000円が必要となります。

【副作用について】

- ・ 自身の血液を使用するため、アレルギー反応等の副作用が起こることは少ないと考えられており、国内外で具体的な有害事象は報告されていません。

しかし以下のような事が起こることが考えられます。

- ・ 採血に伴う合併症（採血部位の疼痛、皮下出血）
- ・ 一般的な注入療法にみられる、注入による痛み等

症状の多くは一時的ですが、症状が続く場合や症状が強くなる場合は当院へご相談ください。